

グループワーク議事録③ 【交流】グループ

➤【カード 24：創作物の販売機会の創出】

➤【カード 25：食と文化を楽しむ場】

➤【カード 32：全国的な産業博覧会】

- ・ 市民文化会館は商業活動の場ではないため、商業ベースの事業はふさわしくないように思う。大ホールでの催しに合わせ、CD や DVD を販売するといったことは、また毛色が異なるのではない。
- ・ 販促事業の実施については、他の事業が整備された後に検討するべきでは。

➤【カード 24：創作物の販売機会の創出】

- ・ 展示即売会は、展示室の場がしっかりと作り上げられるのであれば、イベントに合わせ附属的に開かれるようなイメージである。試作品の展示程度であれば支障ないかもしれないが、様々な面に波及するおそれがある。
- ・ 他の施設でも行うことができる事業であり、新文化ホールでの実施にあたっては、理屈の整理が必要。

➤【カード 25：食と文化を楽しむ場】

- ・ 【カード 24：創作物の販売機会の創出】と同様、他の催事に付随するもの等については、良いと思う。
- ・ 最近旭川でもキッチンカーの催しが多いが、キッチンカーを置く場所が新文化ホールに作れるだろうか。市庁舎前の広場を使うとしても、どう整備されるか現状において不明であり、議論しづらい。

➤【カード 26：市民活動の発表の場】

- ・ ホールのみならず展示室の活用はマストだと思う。現・市民文化会館でも、絵画や書道、写真など、展示室を活用して市民活動の発表が行われており、新文化ホールでも同様に、多くの活動がこのカードの事業と関係するものとする。
- ・ 現・市民文化会館の展示室と、美術館の展示スペースとで、ジャンルの分担は明確ではないが、プロかアマかといったレベル感の違いによる、暗黙の棲み分けが現在には存在するように思う。
- ・ 仮に新文化ホールでもプロの展示を担おうとする場合は、美術館の考え方を受け止めながら検討していく必要があるのでは。
- ・ 新文化ホールに限らず、市内の公共施設をどのように有効活用するか、検討する必要がある。例えば、市民交流の場として「100 人規模の舞台」などは市民活動交流センターCoCoDe で既に行われており、新文化ホールで同じような規模のイベントをわざわざ実施する必要はないのでは。

➤【カード 27：市内他施設との連携事業】

- ・ 公共施設である「市民活動交流センターCoCoDe」や民間施設である「まちなか文化小屋」など、現に様々な活動・交流の場となっている施設との連携は重要になると思う。

- ・旭川は施設同士を点で捉える傾向があるように感じており、線でつなげるにはどうすれば良いか考えることも、大きな課題であると思う。例えば、新文化ホールを訪れた人が、周辺施設で行われている催しを自然に把握できるなど、新文化ホールがコミュニティスペースの中心となり、周辺の活動へと線がつながるように場をつくることが重要なのでは。
- ・線でつなぐことの第一歩として、駅や CoCoDe、民間のスペースなど、既存のコミュニティスペースとの連携を確立することが重要であり、こうした取組が「市内他施設との連携」と捉えられる。

➤【カード 28：新たなジャンルの表現の場】

- ・例年、現・市民文化会館の大ホールで旭川理美容専門学校が発表会を開催しており、この事業はその催しに近いイメージである。現に事業を実施している彼ら・彼女らからすれば、別段「新たなジャンル」ではないようにも思う。
- ・「様々なジャンルの表現の場」や「幅広い発表の場」と捉えた場合、現在も市民文化会館で実施されていることを踏まえると、新文化ホールにおいても維持・継続すべき事業といえるのでは。

➤【カード 29：世代を超えた交流の場】

- ・我々が次世代に何を残していくかというのは、とても大切なこと。我々が提案し、その内容を踏まえ、未来に何を伝えることができるのか検討する必要がある。

➤【カード 30：ホワイエを活用した練習活動】

- ・以前から議論されてきたことであり、引き続き検討していく必要がある。
- ・100 人規模の小さなアンサンブル等を実施する際に、ホワイエあたりを利用することでいつもそこが明るい場所になれば良い。閑散とした文化会館は避けたい。いつも音楽が流れていたり、芸術作品が飾られていたり、そのような空間を作っていくことが大事。
- ・教育などの視点も踏まえると、「色々な芸術に触れられる場所」でなければいけない、という気持ちはとても強い。
- ・現・市民文化会館のエントランスホールも、高校生が集まって勉強するなど、交流の場として使われている。図書館やフィール旭川の自習スペース等もあるが、数が不足しており、新文化ホールでもそのような場所を広く提供する必要がある。勉強だけでなく食事についても、自由にホワイエを使えるなど、空間をこちら側で提供するような状況を作っていく必要がある。
- ・ロビーが自由になんでもできるようなスタンスであってほしい。吹奏楽の演奏を気軽に開けるなど「発表の場」としてだけでなく、日常的な「練習の場」としても活用できると良い。
- ・ただ空間を作るだけだと無駄な空間に見えるかもしれないので、利用しやすい空間づくりが必要。
- ・具体性はないのだが、「行ってみたら何か良いことがありそうだ」と思われるような施設にしたい。
- ・鑑賞者にとっても演奏者にとっても、「あそこへ行けば気軽に演奏できる／聴ける」と感じられる場になり、同じ空間でギャラリーがいつも開かれていたり、勉強や待ち合わせにも使えたりする、そんな多様に活用できる場所を目指したい。

- ・市役所 1 階は開かれた場であるものの、実務的な業務も同時に行われるため、窓口対応中に音楽を流すといった演出は難しい。展示物を設置する場合も、1 階はガラス張りであるため、掲示内容によっては外観が雑多な印象になる可能性もある。
- ・一方で、新文化ホールでは壁に両面ポスターを連続的にずらっと掲示するのも良いかもしれないし、市庁舎と新文化ホールのホワイエとで、何らかの関係性を生み出せる可能性もある。

➤【カード 31：周辺ホテルと連携した学会開催】

- ・現在も年に数回程度開催されており、新文化ホールにおいても引き続き需要が見込まれる事業。
- ・ホテルだけでは会場が不足するため、市民文化会館も会場として活用されてきたという背景がある。
- ・例えば、規模の大きな学会の際には、基調講演を大ホールで、レセプションをホテルで行うなど、複数拠点を組み合わせて運営しており、とても大切な取り組み。
- ・これまで多数の開催実績がある旭川医科大学の関係者の方々からも、交流の意味でこの事業の継続を強く望む旨の意見を聞いている。ハード面でも、ホールと同じ階に会議室を設けるなど、スムーズに学会を開催できるような配置になると良いとのこと。
- ・参加者は学会後に旭山動物園などを訪れることもあるそうで、経済面での波及効果も期待される。

➤【カード 33：ランチミーティング等への対応】

- ・ホテルでも実施できる事業であり、全てを新文化ホールで担おうとすると、あまりにも多くの機能を詰め込み過ぎてしまうのではないか。

➤【その他：アウトリーチ活動】

- ・新たにカードを追加するとしたら、専門分野で活躍している人たちが学校などの現場に出張して技術を伝えるなどのアウトリーチ活動が大事になると思う。
- ・経費の全てを行政が負担する必要はなく、民間に委託する手法もある。これまで多くの場面でボランティア的に関わってきた経験から、子供達の活躍の場を広げるために、大きな費用は本質的にかからないと感じている。
- ・旭川の文化人は質が高いので、その人々をいかに巻き込むかが重要であり、施設運営者側にコミュニティの形成を引っ張っていけるような人材を配置するべきであると思う。
- ・「交流の場」が「文化の発祥の場」にもつながっていくと良い。

➤【その他：自主事業の企画・運営】

- ・これまでは自主事業の実施に際し、行政が民間へ委託する形を取るため、どうしても費用がかさんでしまっていたが、自主事業の企画・運営に民間の人材がより深く関わるなどの手法を採ることができれば、コストを抑えることができると思う。いかに費用をかけず、質の高い事業を実施できるかが、運営上のポイントとなる。